

2023年8月8日

上場会社名 株式会社バンダイナムコホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 7832 URL <https://www.bandainamco.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 川口 勝
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 浅古 有寿 TEL 03-6634-8800
 四半期報告書提出予定日 2023年8月9日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第1四半期の連結業績 (2023年4月1日~2023年6月30日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第1四半期	224,812	4.0	27,989	△37.0	32,733	△36.2	21,786	△41.1
2023年3月期第1四半期	216,241	21.5	44,393	64.3	51,274	78.3	37,019	77.0

(注) 包括利益 2024年3月期第1四半期 40,431百万円 (△21.1%) 2023年3月期第1四半期 51,269百万円 (108.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第1四半期	33.01	-
2023年3月期第1四半期	56.10	-

(注) 当社は、2023年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり四半期純利益」を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第1四半期	896,180	653,168	72.9
2023年3月期	926,358	652,133	70.4

(参考) 自己資本 2024年3月期第1四半期 652,879百万円 2023年3月期 651,851百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	-	27.00	-	179.00	206.00
2024年3月期	-	-	-	-	-
2024年3月期 (予想)	-	10.00	-	10.00	20.00

(注) 1. 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2024年3月期の第2四半期末及び期末配当金の予想値につきましては、当社の利益配分に関する基本方針に基づきベース配当を記載しております。2024年3月期の期末配当金につきましては利益配分に関する基本方針に基づき、別途検討いたします。

2. 当社は、2023年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。2023年3月期については、当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。

3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

（%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	475,000	△0.5	60,000	△26.5	65,000	△29.6	44,000	△33.9	66.66
通期	1,000,000	1.0	125,000	7.3	129,000	0.8	91,000	0.7	137.87

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 有

2023年5月10日に公表いたしました連結業績予想の第2四半期連結累計期間を本資料において修正しております。連結業績予想の修正については、添付資料 P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

（注）詳細は、添付資料 P. 11「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期1Q	666,000,000株	2023年3月期	666,000,000株
② 期末自己株式数	2024年3月期1Q	5,949,371株	2023年3月期	5,949,648株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期1Q	660,050,229株	2023年3月期1Q	659,930,487株

（注）当社は、2023年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「期末発行済株式数」、「期末自己株式数」及び「期中平均株式数」を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項は、添付資料 P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（四半期決算補足説明資料の入手方法について）

四半期決算補足説明資料は、2023年8月8日に当社ウェブサイトに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	9
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	10
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	11
(セグメント情報)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における国内外の経済環境は、新型コロナウイルス感染症による行動制限等が緩和され社会経済活動が緩やかに回復する一方で、社会情勢の変化、原材料価格や燃料価格の上昇、為替の変動等による影響で、先行きについては不透明な状況が継続しました。

このような環境の中、バンダイナムコグループは2022年4月からグループの最上位概念となる「パーパス“Fun for All into the Future”」と新ロゴマークの導入を行うとともに、3カ年の中期計画をスタートしました。中期計画においては、「パーパス“Fun for All into the Future”」のもと、バンダイナムコグループが目指す姿に向け、世界中のIPファン、あらゆるパートナー、グループ社員、そして社会と常に向き合い、広く、深く、複雑につながる存在を目指し「Connect with Fans」を中期ビジョンに掲げ、重点戦略として「IP軸戦略」「人材戦略」「サステナビリティ」を推進しています。重点戦略の推進を通じ、IP（Intellectual Property:キャラクター等の知的財産）の世界観や特性を活かし、最適なタイミングで、最適な商品・サービスとして提供することでIP価値の最大化をはかる「IP軸戦略」をさらに進化させていきます。また、「IP軸戦略」のグローバル展開を強化し、ALL BANDAI NAMCOでの一体感と総合力を高め、持続的な成長を目指してまいります。

当第1四半期連結累計期間につきましては、IP軸戦略を核に各地域や事業を横断・連携しALL BANDAI NAMCOで一体となった取組みを強化しました。グループ全体では、ハイターゲット層（大人層）向け商品や定番IP商品が人気となった玩具ホビー事業、業務用ゲームの新製品の販売等が好調だったアミューズメント事業が業績に貢献しました。デジタル事業においては、家庭用ゲームにおいて大型タイトルのリピート販売が好調だった前年同期とのタイトル編成やプロダクトミックスの変化が業績に影響しました。グループ全体では、幅広い事業で構成されるポートフォリオ経営が効果を発揮しました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の経営成績は、売上高224,812百万円（前年同期比4.0%増）、営業利益27,989百万円（前年同期比37.0%減）、経常利益32,733百万円（前年同期比36.2%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益21,786百万円（前年同期比41.1%減）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

[デジタル事業]

デジタル事業につきましては、家庭用ゲームのワールドワイド向け大型タイトルの発売を第2四半期連結会計期間以降に予定していることや、前年同期と比較しリピートタイトルの販売数が落ち着く等タイトル編成とプロダクトミックスの変化が業績に影響しました。ネットワークコンテンツにおいては、「DRAGON BALL」シリーズや「ONE PIECE」等の主力タイトルがユーザーに向けた継続的な施策により安定的に推移しました。同事業においては、ワールドワイドで競争が激化するマーケット環境を踏まえ、クオリティを重視したタイトルの開発とロングライフ化に向けたファンとつながり続けるマーケティング施策を推進します。

この結果、デジタル事業における売上高は68,040百万円（前年同期比24.1%減）、セグメント利益は2,661百万円（前年同期比91.0%減）となりました。

[玩具ホビー事業]

玩具ホビー事業につきましては、原材料価格や燃料価格上昇の影響を受けたものの、好調カテゴリーやグローバル展開の拡大、生産体制の強化等をはかったことにより引き続き好調に推移しました。具体的には、「ガンダムシリーズ」のプラモデルやコレクターズフィギュア、キャラクターくじ等のハイターゲット層向けの商品が、販売・マーケティングや商品ラインナップの強化等により好調に推移しました。また、「ONE PIECE」のトレーディングカードゲーム等のカード商材、カプセルトイ等が商品ラインナップや顧客とのタッチポイントの強化等により業績に貢献しました。

この結果、玩具ホビー事業における売上高は120,372百万円（前年同期比26.9%増）、セグメント利益は23,629百万円（前年同期比64.5%増）となりました。

[IPプロデュース事業]

IPプロデュース事業につきましては、IP創出強化を目的に映像事業の拠点統合を行い、映像製作におけるノウハウや人材の交流強化をはかりました。事業面では、「機動戦士ガンダム 水星の魔女」の公開が新規ファンを獲得し、グループの商品・サービス販売の好調につながりました。また、「ガンダムシリーズ」や「ラブライブ！シリーズ」、「転生したらスライムだった件」、「ブルーロック」等のライセンスビジネスや映像配信が好調に推移しました。

この結果、IPプロデュース事業における売上高は14,992百万円（前年同期比4.4%減）、セグメント利益は1,058百万円（前年同期比2.5%減）となりました。

[アミューズメント事業]

アミューズメント事業につきましては、国内アミューズメント施設の既存店売上高が前年同期比で102.6%となりました。また、「バンダイナムコ Cross Store」や「ガシャポンのデパート」のようなグループの商品・サービスと連携したバンダイナムコならではの施設展開が好調に推移しました。業務用ゲームにおいては、新製品「機動戦士ガンダム エクストリームバーサス2 オーバーブースト」の販売が好調に推移しました。また、燃料価格の上昇等の外部環境の変化も踏まえ、引き続き効率化に取り組みました。

この結果、アミューズメント事業における売上高は28,240百万円（前年同期比22.7%増）、セグメント利益は3,157百万円（前年同期比49.4%増）となりました。

[その他事業]

その他事業につきましては、グループ各社へ向けた物流事業、その他管理業務等を行っている会社から構成されており、これらのグループサポート関連業務における効率的な運営に取り組んでおります。

その他事業における売上高は8,098百万円（前年同期比15.2%増）、セグメント利益は481百万円（前年同期比267.6%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産につきましては、前連結会計年度末に比べ30,177百万円減少し896,180百万円となりました。これは主に受取手形、売掛金及び契約資産が7,249百万円、仕掛品が7,611百万円増加したものの、配当金の支払い等により現金及び預金が64,096百万円減少したことによるものです。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ31,212百万円減少し243,012百万円となりました。これは主に支払手形及び買掛金が8,450百万円、未払法人税等が11,711百万円、未払金が減少したこと等により流動負債のその他が9,518百万円減少したことによるものです。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ1,034百万円増加し653,168百万円となりました。これは主に配当金の支払いにより利益剰余金が17,608百万円減少したものの、その他有価証券評価差額金が3,832百万円、繰延ヘッジ損益が2,696百万円、為替換算調整勘定が12,015百万円増加したことによるものです。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末の70.4%から72.9%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後につきましては、世界の各地域において先行きが不透明な状況が継続すると予測されます。また、市場や顧客のライフスタイルや嗜好等の我々を取り巻く環境の変化がさらに激しくなることが想定されます。

このような環境の中、当社グループは、グローバル市場における競争の激化、顧客のライフスタイルや嗜好の多様化に対応し、IP軸戦略のもと、各事業の個性を活かしながら、ALL BANDAI NAMCOでの一体感と総合力を高めてまいります。2022年4月からはグループの最上位概念となる「パーパス “Fun for All into the Future”」と新ロゴマークの導入を行うとともに、「パーパス」が示す目指す姿に向け中長期で持続的な成長をはかるため、3カ年の中期計画をスタートしました。

① 「パーパス “Fun for All into the Future”」の制定と新ロゴマークの導入について

2022年4月より、「社会における存在意義」や“なぜその事業や企業活動を行うのか”“私たちがバンダイナムコで働く意味”を表す「パーパス “Fun for All into the Future”」を制定しグループの最上位概念とすることとしました。「パーパス」の中で特に重要な要素が“つながる”“ともに創る”で、バンダイナムコとファンが「夢・遊び・感動」を通してつながることで“Fun for All into the Future”を実践していきます。

<Bandai Namco's Purpose>

Fun for All into the Future

もっと広く。もっと深く。

「夢・遊び・感動」を。

うれしい。たのしい。泣ける。勇気をもらおう。

誰かに伝えたい。誰かに会いたい。

エンターテインメントが生み出す心の豊かさで、

人と人、人と社会、人と世界がつながる。

そんな未来を、バンダイナムコは世界中のすべての人とともに創ります。

2022年4月より、「パーパス」にこめた思いを表現した新ロゴマークを導入しました。社名にバンダイナムコを冠する会社は全てこのロゴマークを使用するほか、バンダイナムコを社名に冠する、冠さないにかかわらず、原則的に全ての商品・サービスに新ロゴマークを表記します。これにより、商品・サービスやレーベルが持つ価値を新ロゴマークに集積するとともに、グループの一体感と総合力を強く訴求し、グローバル市場におけるブランド価値の向上を目指します。

<ロゴマーク>



②「パーパス “Fun for All into the Future”」のもと目指す姿

「パーパス」のもと、バンダイナムコグループが目指す姿は、世界中のIPファン、あらゆるパートナー、グループ社員、そして社会とつながる姿です。新規のファンとはより「広く」つながり、既存のファンとはより「深く」つながります。そして、既存ファンと新規ファン、ファンから生まれたコミュニティ同士が「複雑に」つながり合うというファンとのつながりを目指します。様々なファンと、ファン同士がつながるにあたり、1番重視することは、どのようにつながるかというつながり方の質です。中期計画においても、ファンと広く、深く、複雑につながること、つながり方の質を重視した様々な戦略や取組みを推進します。

③中期ビジョン

Connect with Fans

「パーパス “Fun for All into the Future”」のもとバンダイナムコグループが目指す姿に向け、中期計画では、世界中のIPファン、あらゆるパートナー、グループ社員、そして社会と常に向き合い、広く、深く、複雑につながる存在を目指します。

④重点戦略と投資計画

IP軸戦略

バンダイナムコグループでは、中期計画においてもグループ最大の強みであるIP軸戦略を核とします。世界中のファンとより広く、深く、複雑につながるための新たな取組み、IP軸戦略の進化、世界の各地域でALL BANDAI NAMCOで一体となり事業構築に取り組むことで持続的な成長を目指します。

- ・IP×Fan（IPでファンとつながる） ファンとつながるための新しい仕組み

バンダイナムコがIPを軸に、ファンに寄り添う新しい仕組みとしてIPごとのメタバースを開発します。この「IPメタバース」は、仮想空間の中で、IPを軸に幅広いエンターテインメントを楽しむことができるほか、フィジカルな商品や場とデジタルが融合するバンダイナムコならではの仕組みを想定しており、ファンやパートナーがつながるための場を提供するオープンなものを目指しています。「IPメタバース」によって、バンダイナムコとファンが、さらにはファン同士がコミュニティやコンテンツを通じて長期にわたって広く、深く、複雑につながる関係を構築し、つながり方の質を追求します。これにより中長期的にIP価値の最大化に取り組めます。

- ・ I P × V a l u e（I Pの価値を磨く） I P軸戦略の進化
幅広い商品・サービスの出口、フィジカルとデジタルの双方で連携できる強みを生かし、I PファンやI Pそのものにとって最適なI P軸戦略とは何かの再定義を行い、I P軸戦略の進化を目指します。
- ・ I P × W o r l d（I Pで世界とつながる） ALL BANDAI NAMCOでの事業構築
世界の各地域においてALL BANDAI NAMCOで一体となり戦略を推進するため、組織再編や各事業の拠点集約等を行いました。このALL BANDAI NAMCO体制のもと、各地域において事業の構築に取り組みます。
- ・ I P軸戦略の進化に向けた投資計画
中期計画の3年間でI P軸戦略の進化に向けた戦略投資として合計400億円の投資を行います。
I P価値最大化に向けた戦略投資 250億円
「I Pメタバース」開発に向けた投資 150億円

人材戦略 多様な人材の育成

バンダイナムコグループは、「パーパス“Fun for All into the Future”」のもと、様々な才能、個性、価値観を持つ多様な人材が生き生きと活躍することができる「同魂異才」の企業集団でありたいと考えます。新卒・キャリア、性別、年齢、国籍、人種、宗教や性的指向にこだわらず人材の確保・登用を行うとともに、多様な人材が活躍することができ、心身ともに健康に働くことができる様々な制度や環境の整備にさらに注力します。中期計画においても、社員のチャレンジを支援する取組み、グローバルでI P軸戦略を推進する人材を育成する取組み等を推進するとともに、多様な働き方や新たな働き方への対応を推進します。また、外部人材との連携や協業も積極的に行ってまいります。

サステナビリティ 笑顔を未来へつなぐ

バンダイナムコグループは、「パーパス“Fun for All into the Future”」及び「バンダイナムコグループのサステナビリティ方針」のもと、特に重点的に取り組む必要がある5つのテーマをマテリアリティとして特定し、再生可能エネルギー由来の電力の導入や脱石油由来プラスチックに向けた取組み、またプラモデルのランナーや空カプセルの回収及びリサイクルの推進といった、事業と連携した様々な具体的なアクションプランを推進しています。さらには、社会が直面している自然環境の問題に対応すべく、エネルギー由来の二酸化炭素排出量削減目標とステップの設定を行い、脱炭素に向けた取組みを進めます。

<バンダイナムコグループのサステナビリティ方針>

バンダイナムコグループは、I P軸戦略のもと、ファンとともに、バンダイナムコグループが向き合うべき社会的課題に対応したサステナブル活動を推進します。

<特定したマテリアリティ>

- 地球環境との共生 - 適正な商品・サービスの提供 - 知的財産の適切な活用と保護
- 尊重しあえる職場環境の実現 - コミュニティとの共生

⑤中期計画を推進する体制

- ・バンダイナムコホールディングスにおけるガバナンス体制強化

バンダイナムコホールディングスは、コーポレート・ガバナンス体制の強化をはかるとともに、スピーディな意思決定と業務執行を行うことで、企業価値のさらなる向上に取り組むことを目的に2022年6月より監査等委員会設置会社へ移行しました。

- ・ユニット体制の一部変更について

2022年4月より、I Pプロデュースユニット内の再編を行うとともに、映像音楽事業とクリエイション事業を統合しI Pプロデュース事業に一本化しました。I Pプロデュースユニットにおいては、ユニット内で映像事業を展開する会社3社（㈱サンライズ、㈱バンダイナムコアーツの映像事業、㈱バンダイナムコライツマーケティング）を統合した㈱バンダイナムコフィルムワークスが事業統括会社として統括します。

⑥計数目標 株主還元施策

- ・2025年3月期 計数目標

連結売上高	11,000億円
連結営業利益	1,250億円
ROE	12%以上

今後は、世界中のI Pファン、あらゆるパートナー、グループ社員、そして社会と常に向き合い、広く、深く、複雑につながる存在を目指し、中期計画のもと、全世界で各事業がALL BANDAI NAMCOでこれまで以上に一体となり、重点戦略（I P軸戦略、人材戦略、サステナビリティ）に取り組んでまいります。

2024年3月期の第2四半期連結累計期間の連結業績予想数値につきましては、第1四半期連結累計期間の実績及び第2四半期連結会計期間の商品・サービスのマーケティング計画等を精査した結果、2023年5月10日に公表した予想数値に対し、為替差益等による営業外収益が増加する見込みであることから、経常利益の予想数値を変更いたします。なお、2024年3月期通期の連結業績予想数値につきましては見直しを行っておりません。今後、予想数値を精査した上で改めて開示いたします。

2024年3月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正 (2023年4月1日～2023年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回予想 (A)	475,000	60,000	62,000	44,000	66.66
今回予想 (B)	475,000	60,000	65,000	44,000	66.66
増減額 (B-A)	—	—	3,000	—	—
増減率 (%)	—	—	4.8	—	—
(ご参考) 前期第2四半期実績 (2023年3月期第2四半期)	477,620	81,607	92,365	66,557	100.85

(注) 当社は、2023年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり四半期純利益」を算定しております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	280,226	216,129
受取手形、売掛金及び契約資産	99,007	106,256
商品及び製品	41,324	45,561
仕掛品	104,835	112,446
原材料及び貯蔵品	6,063	6,710
その他	62,266	66,204
貸倒引当金	△1,086	△1,158
流動資産合計	592,637	552,150
固定資産		
有形固定資産	107,458	110,789
無形固定資産		
のれん	14,561	14,011
その他	21,622	23,178
無形固定資産合計	36,183	37,189
投資その他の資産		
投資有価証券	140,706	146,372
その他	50,029	50,380
貸倒引当金	△656	△701
投資その他の資産合計	190,078	196,051
固定資産合計	333,720	344,030
資産合計	926,358	896,180

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	99,244	90,793
短期借入金	10,770	10,919
未払法人税等	26,022	14,311
引当金	4,078	877
その他	107,206	97,688
流動負債合計	247,323	214,590
固定負債		
引当金	118	118
退職給付に係る負債	3,710	3,497
その他	23,071	24,805
固定負債合計	26,901	28,421
負債合計	274,224	243,012
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	52,897	52,897
利益剰余金	523,923	506,314
自己株式	△2,102	△2,103
株主資本合計	584,718	567,108
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	62,671	66,503
繰延ヘッジ損益	△656	2,039
土地再評価差額金	△4,016	△4,016
為替換算調整勘定	11,049	23,065
退職給付に係る調整累計額	△1,915	△1,821
その他の包括利益累計額合計	67,132	85,771
非支配株主持分	282	289
純資産合計	652,133	653,168
負債純資産合計	926,358	896,180

（2）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

（四半期連結損益計算書）

（第1四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第1四半期連結累計期間 （自 2022年4月1日 至 2022年6月30日）	当第1四半期連結累計期間 （自 2023年4月1日 至 2023年6月30日）
売上高	216,241	224,812
売上原価	119,558	135,454
売上総利益	96,683	89,357
販売費及び一般管理費	52,289	61,368
営業利益	44,393	27,989
営業外収益		
受取配当金	1,215	1,363
為替差益	4,669	2,111
その他	1,697	1,655
営業外収益合計	7,582	5,131
営業外費用		
デリバティブ評価損	595	297
その他	106	90
営業外費用合計	702	387
経常利益	51,274	32,733
特別利益		
固定資産売却益	17	19
投資有価証券売却益	—	22
新型コロナウイルス感染症に伴う雇用調整助成金等	74	—
その他	0	0
特別利益合計	92	41
特別損失		
投資有価証券評価損	—	291
新型コロナウイルス感染症に伴う店舗臨時休業等による損失	57	—
その他	113	102
特別損失合計	171	393
税金等調整前四半期純利益	51,195	32,382
法人税等	14,170	10,591
四半期純利益	37,024	21,791
非支配株主に帰属する四半期純利益	5	4
親会社株主に帰属する四半期純利益	37,019	21,786

（四半期連結包括利益計算書）
 （第1四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第1四半期連結累計期間 （自 2022年4月1日 至 2022年6月30日）	当第1四半期連結累計期間 （自 2023年4月1日 至 2023年6月30日）
四半期純利益	37,024	21,791
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,747	3,762
繰延ヘッジ損益	702	2,693
為替換算調整勘定	9,674	12,015
退職給付に係る調整額	115	94
持分法適用会社に対する持分相当額	4	73
その他の包括利益合計	14,244	18,640
四半期包括利益	51,269	40,431
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	51,263	40,424
非支配株主に係る四半期包括利益	5	6

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 3
	デジタル 事業	トイホビ ー事業	I Pプロ デュース 事業	アミュー ズメント 事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	88,561	91,670	11,871	22,504	214,607	1,634	216,241	—	216,241
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,038	3,202	3,815	518	8,574	5,393	13,967	△13,967	—
計	89,599	94,872	15,686	23,022	223,181	7,027	230,209	△13,967	216,241
セグメント利益	29,411	14,363	1,085	2,113	46,973	131	47,104	△2,711	44,393

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、グループ各社へ向けた物流事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△2,711百万円には、セグメント間取引消去90百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△2,801百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 3
	デジタル 事業	トイホビ ー事業	I Pプロ デュース 事業	アミュー ズメント 事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	66,799	115,872	12,477	28,209	223,358	1,453	224,812	—	224,812
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,240	4,500	2,514	31	8,287	6,645	14,932	△14,932	—
計	68,040	120,372	14,992	28,240	231,646	8,098	239,745	△14,932	224,812
セグメント利益	2,661	23,629	1,058	3,157	30,508	481	30,989	△3,000	27,989

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、グループ各社へ向けた物流事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△3,000百万円には、セグメント間取引消去△218百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△2,781百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

該当事項はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

該当事項はありません。

（重要な負ののれん発生益）

該当事項はありません。